

ひろば

優良公民館紹介

第74回優良公民館（文部科学大臣表彰）
日出町豊岡地区公民館

豊岡地区公民館 館長 池部 長行

「時代の変化に対応する公民館活動」

豊岡地区公民館は、昭和55年7月に完成し、地域の伝統文化の継承をはじめ地区民交流の拠点として、今日までその役割を果たしてきた。しかしながら近年、私たちを取り巻く環境は、大きく変化し、価値観の多様化、人與人、更には地域との繋がりの希薄化に加え若者のふるさと離れから世代交代は進まず、高齢化にますます拍車をかけているのが現状である。

こうした課題に対し、今、公民館の果たす役割は何かと考えたとき、それは地域に根付き、誰もが夢と希望を持ち、人々との繋がりの中で和を育む環境作りではないかと考えた。

こうしたことから職員一同「子どもに夢を、大人に希望を、地域に和を」公民館の活動テーマとして掲げ、今日までその具体的な実践に取り組んできた。

1 子どもに夢を持たせる「放課後子ども教室、交歓キャンプ等」
下校後、家族が帰宅するまでの間、ボランティア・保護者の協力を得て、子ども達の居場所づくり、見守りを行う中で、伝統文化の季節行事を実施している。

春には、「花まつり」、「青葉の頃は」、「柏餅づくり」、「芋植え」、夏には、「七夕」、「交歓キャンプ」、秋には、「芋堀り」、「月見」、そして年末には、「親子餅つき」、「クリスマス会」などの思い出づくりを通じて誇れる「ふるさと感」を育む環境を提供している。また、こうした行事を行うことにより、地域の団体、学校、ボランティアなど多くの人たちが交流することに繋がり、夢を語る機会となっている。

2 大人に希望を「人的財産の活用など」

人生100年時代と言われ、健康寿命を如何に保つかは、その人の人生を大きく左右すると考えている。定年を迎え、行動範囲も狭くなり、人との関わりも減少し、ややもすれば塞ぎがちな高齢者が、今一度、豊富な知識・経験で昔の輝きを取り戻せないかと考え、放課後子ども教室の支援員、伝統行事の講師、季節行事の指導者、サークル活動のリーダーとして希望を再生させ、生きがいを持たせることにより明日への希望と笑顔を取り戻せるものと信じている。

3 地区に和を取り戻そう「アクティブな地域活動」

和は、みんなを元気にすることから老若男女が集い、交流する機会を提供することが重要と考えている。高齢化の中にあつて、勇気の一步を踏み出すことは容易ではないが、友人、隣人の声掛けがその一步を踏み出し、繋がることになる。単に行事での集いが繋がりではない。行事における隣人同士の前後の関わり方が、実は本当の意味でのふれあいであり、和の構築に繋がるものと考えている。本館では、地区体育祭をはじめソフトボール大会、軽スポーツ大会、豊岡地区ふるさとまつりなど多くの地区民が集う交流の機会を設けている。

4 地域と学校つなげレター「老人会と交流」

少子高齢化が進む中、自分たちの子どもや孫も遠くに離れ、成長した今日、子ども達と触れ合う機会は年々少なくなっている。加えて昨今のコロナ禍、行事等も制約される中、高齢者（敬老会員）の方たちにお手紙を書くことと呼び掛けに小学校も賛同し、敬老の日に健やかな長寿を願い贈ったことに、大変感謝されている。まさに、情意投合の交流となっている。小学校や公民館を通して高齢者から小学生にお礼のお手紙も送られた。

5 まとめ

公民館は、時代とともに、その果たす役割は変化しており、その時々々の世情に応じ現代社会の足らざる部分を補うため、未来につなげる人を育成する役割を有していると考えている。

煩雑、多忙な日々の中での公民館活動は、直ちに成果として見えるものではないが「継続は力なり」のとおり、勇気と熱意そして想像力をもって人とのふれあい、関わりを大切に今後とも地道に公民館活動に取り組んで参りたい。



令和3年度 大分県公民館連合会研修報告

公民館関係職員研修会

テーマ別研修会①

テーマ別研修会②



公民館関係職員研修会

期日 令和3年5月27日(木)
会場 Zoomを活用したオンライン研修
参加者 県内各地の公民館関係者(自治公民館を含む)及び社会教育関係者等44名

内容

○講義
 1「公民館における人権教育」
 講師…大分県教育庁人権教育・部落差別解消推進課主任社会教育主事 秋吉 邦治氏
 2「求められる公民館の役割」
 講師…大分県教育庁社会教育課 課長補佐(総括) 兼主任社会教育主事 馬場 尚登氏

○活動報告
 「子どもを中心に地域が元気！」
 ～ありがとうの気持ちで繋がろう～
 発表者…佐伯市直川地区公民館 地域学校協働活動推進員 久保田 恵子氏
 佐伯市直川地区公民館 社会教育推進員 小田木 聖孝氏



参加者の声(アンケートから)
 ・Zoomによる研修は初めてだったが、遠方からの移動時間を考慮すると、新型コロナウイルス感染症が収束しても現地参加とオンライン参加の併用の研修は続けるべきである。
 ・Zoomを活用するのであれば、協議の時間を確保し話し合うことも大切だと感じた。協議が無ければ、録画した映像を一定期間自由に視聴し学習できるようにしてほしい。
 ・地域毎の公民館の実態をもっと知ってほしい。
 ・直川地区公民館による通学合宿や放課後の教室等は、地域人材を活用した事例として大変参考になる。

テーマ別研修会①

期日 令和3年7月16日(金)
会場 別府市中央公民館
参加者 県内各地の公民館関係者(自治公民館を含む)及び社会教育関係者等59名

内容

○研修1
 *講義「地域づくりにおける公民館の果たす役割」
 講師 大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター教授 岡田 正彦氏
 ○研修2
 *事例発表 「公民館活動による地域の活性化」
 発表者 国東市熊毛地区公民館 館長 溝井 浩二氏
 主任 森廣 美砂子氏
 日出町大神地区公民館 主任 姫野 秀宇氏
 *ワークショップ
 講師 大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター教授 岡田 正彦氏

参加者の声(アンケートから)
 ・熊毛公民館の「地域の宝は子どもであり、高齢者である」という考え方からの取組に感心した。日出大神地区の、今後の課題についても正直にお話している様子が良かった。
 ・「連携・協働」の方向性と重要性を改めて学べた。しかし、その対象となる「人・団体」が高齢化し、若年・中年(40〜60歳)が少ない現実が悩ましさがある。いわゆる生産年齢層の多忙な方々との協働が難しい。
 ・ワークショップは短時間だったが、自分の思っていること以外のヒントをもらった。
 ・公民館活動は「住民が主役」が基本。得てして行政・公民館主体の活動になりがちだが、「住民主体」の視点での公民館活動になっているかという反省を忘れずに活動したい。



テーマ別研修会②

期日 令和3年9月10日(金)
会場 野津中央公民館 大ホール
参加者 県内各地の公民館関係者(自治公民館を含む)及び社会教育関係者等35名

内容

○研修1
 講義 「災害を知り、地域を知り、人を知る!」
 「災害リスクを知り、命を守る」
 講師 大分大学減災・復興デザイン教育研究センター 防災コーディネーター 板井 幸則氏

○研修2
 演習 「避難所としての公民館の役割と避難所を考える」
 講師 大分大学減災・復興デザイン教育研究センター 防災コーディネーター 板井 幸則氏



参加者の声から
 ・実際に災害の現場に足を運び、多くの資料をもとに防災教育に取り組んでいる先生の話は、とても心に響いた。
 ・いろいろなケースを想定しての準備が必要であるとわかった。早速考えて、持っておこうと思う。
 ・自分の命は自分で守ること、学ぶことを年1回より年2〜3回と取組に入れて、地域の方々のスキルを高めることを公民館にも取り入れたいと思った。
 ・本市の家庭教育支援部会で防災への関心が高まっている。ぜひ先生に講話いただきたい。

第72回大分県公民館研究大会 由布大会



期日 令和3年10月28日(木)
会場 由布市はさま未来館
由布市狭間庁舎

「公民館を拠点とした地域づくり」～公民館の果たすべき役割～をテーマに由布市はさま未来館をメイン会場として開催。コロナ禍の中、日程を短縮、参加者数を制限して実施。全体会

・主催者あいさつ
大分県公民館連合会会長 中野 五郎 氏
来賓祝辞 由布市長 相馬 尊重 氏
表彰(県公連表彰・広報コンクール表彰)
表彰(県公連表彰・広報コンクール表彰)

基調講演

演題「地域づくりにおける公民館の果たす役割」

講師 大分大学教育マネジメント機構基礎教育センター 教授 岡田正彦氏
講師からの提言

- ・先進的・意欲的に取組を行っている公民館の事業は、構成する要素や視点は参考になる点が多い。しかし、地域特性等を考慮にいれて、事業を組み立てる必要がある。
- ・地域組織や学校等との連携・協働は、近年の社会教育事業において重要性が高まっており、公民館単独ではできない効果を生み出すことが可能となる。
- ・「開かれ、つながる社会教育」を実現するために、社会教育側から積極的な働きかけを行い、住民が主体的に参加するきっかけづくりになる場を提供するべきである。

分科会概要

第1分科会「地域づくり」
テーマ「地域課題に対応した公民館活動の在り方」



因である。
《助言者より》

・人口減少や少子高齢化等により将来への不安が大きいことが課題のひとつとなっている。その課題解決に向けて地域に係る人(団体や行政)が協力して持続可能な地域を作ることが必要だと思う。地域づくりの手法はこうでなければならぬというものは無いが、地域の良さや宝、課題を把握・共有してはならない。

《主な質疑》

Q 子どもたちが地域の伝統芸能に積極的に関わるために、どのようなアプローチをしたか教えてほしい。
A 始めるきっかけは、平成30年の国民文化祭である。地域で伝統芸能を見直すという流れが進み、学校と連携し授業の中で取り組んでくれるようになった。学校内で上級生が下級生を指導する体制ができていことも大きな要

有して様々な人たちがそれぞれの立場からアイデアを出し合う機会を公民館がコーディネートすれば、そこに繋がりが生まれ行動につながる。
・地域課題を見つけて解決に向けて取り組むことは難しい。無いものに目を向けるのではなく、有るもの(伝統文化等)を最大限活用するという視点が地域の課題解決や地域づくりに繋がる。また、良い取組をいかにうまく情報発信し、関心を持ってくれる人々を巻き込んでいくかということが大切な考え方である。

第2分科会「教育の協働」
テーマ「教育の協働と地域教育力の向上の核となる公民館の在り方」



《助言者より》

Q なぜ白杵市野津町の地域でハロウィンの取組を行うようになったのか。また、今年は何人参加したのか。また、今年は何人参加したのか。また、今年は何人参加したのか。
A 英語教室のALITが始まった。年数を重ねるうちに徐々に地域に広がっていった。小さいことでも継続することが大切であると感じている。また、子どもたちが楽しんで取り組めるようにものごとを考え実施している。

・人口減少等の課題があり、公民館での活動が減少傾向にある中、公民館から地域に出て活動をするという発想の転換を行ったことは素晴らしい。また、企業や高校を地域の人材であると捉え協働しながら、体験活動の充実することは、後継者の発掘や活動のマンネリ化の解消に大変効果的である。
・公民館内で実施していた事業を外に活動を広げることが重要なターニングポイントになっている。野津公民館のように商店街と連携し、将来的に地域の方々が自主的・主体的に取組んでくれるような仕組みにして最終的に公民館は間接的に関わる体制を作ることが今後の公民館活動に必要な考え方である。

第3分科会「人権教育の推進」
テーマ「人権を尊重し、明るい社会づくり」に資する公民館の在り方」



《主な質疑》

Q 公民館で人権学習を実施するにあたり、研修の内容を公民館独自で企画しているか。
A 市を挙げて人権教育に力を入れ、年間を通じて「人権問題連続講座」の実施や人権教育ファシリテーター養成講座などを実施している。また、町内人権啓発推進委員と連携し自治会等による学習会の実施に向けた支援もしている。

《助言者より》

・人権教育を地域で進めて行くにあたり、参加者を募る難しさを担当者が感じる人が多いようである。しかし、そのような中、職員の地道な活動により、市民に人権尊重の基礎作りは徐々にできてきているように感じる。「人権感覚」と「知的理解」の双方を同時に養えるような学習や取組を継続的に続けてほしい。
・部落差別の解消の推進に関する法律において、地域の実情に応じ、部落差別を解消するため、必要な教育及び啓発を行うよう努めるものがある。部落差別の解消を推進していくためには、私たち行政職員が正しい知識を持つことや理解を進めることが必要である。
・参加者の固定化を解消するためには、公民館を利用する団体等と連携し、新たな参加者の開拓に取り組んでいってほしい。

第4分科会「自治公民館活動」
テーマ「豊かな地域づくりを担う自治公民館活動の在り方」



《主な質疑》

Q 自治公民館を運営していく上で、今後のビジョンや担い手の育成はどのように考えているか。
A 湯布院町自治公民館連絡協議会を組織し、自治会相互の連携を図っている。自治公民館長対象に研修を行い、地域に学びを還元する取組をしている。また、自治公民館活動推進事業を行い、自治区に対し補助を行い、地域の伝統文化の継承や祭りなどのイベントを実施し、参加者を募り、関わってもらうことで将来の担い手に繋げている。

《助言者より》

・高齢者と子どもたちとの繋がりが地域のコミュニティづくりを公民館だけで進めて行くのは不可能である。公民館の機能を発揮し地域づくりを進めて行くためには、地域の方々の協力が不可欠である。
・第10期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理「多様な主体の協働とICTの活用で、つながる生涯学習・社会教育」を守り、誰一人として取り残さないことを目指す。①「命を守る」生涯学習②ICT活用、デジタルデバイス活用③子供・若者の地域・社会への主体的な参画。そのうち②のICT活用で言われているインターネットの情報が命綱にもなりえるところがあるように、ICTの活用が重要視される中、湯布院町東石松区では、建物がない自治公民館ではあるが、HPを活用した活動を行うなど、新たな公民館の在り方を教えてもらった。特に地域の活性化には、情報の共有が不可欠であるという言葉を皆さんにも共有してもらいたい考え方だと感じた。

別府地区公民館連合会は、公民館同士の連携を図り、相互の振興発展に寄与することを目的として、別府市、杵築市、国東市、姫島村、日出町の公民館で組織されている。

令和3年度開催の研修会においては、「別府湾から国東半島地域にかけての歴史」について学ぶことを目的として、1月に2つの講演会を企画した。しかし、新型コロナウイルスの再度のまん延により、3月に開催を延期し、かつ次の講演会のみ実施することとなった。

別府地区公民館連合会研修会

演題 「別府湾を巡る歴史点描」

～ザビエル来豊と

慶長豊後地震を中心に～

講師 日出町歴史資料館・

日出町萬里記念館

平井義人 館長

新型コロナウイルス感染症の動向が、事業の実施に少なからず影響を与え、各市町村間、各公民館同士で横の連携が図りづらくなっている。

そのような中でも、10月に由布市で開催された大分県公民館研究大会において、当地区連合会から推薦を行った国東市の河野伸二様、石川祥一郎様、岐部準次様が公民館勤続職員表彰を、杵築市の河尾定憲様、岩尾博信様が公民館運営審議会委員表彰をそれぞれ受賞され、別府市の鶴見町、扇山、中須賀東町、原町の各



別府地区公民館連合会

会長 藤原 寛

自治公民館が広報コンクールで入賞されたことは、誠に喜ばしいことである。また、同日行われた研究大会の分科会において当地区連合会を代表して、日出町大神地区公民館に事例発表の機会をいただいた。

少子化、高齢化、核家族化に加え、コロナ禍での事業実施の判断など、どの公民館でも同様の悩みを抱えていると思われるが、人と人とのつながりが求められる昨今であり、公民館活動がより重要となっていく。先輩諸氏に指導を仰ぎながら住民ニーズをつかみ、工夫を重ね、地域活動を衰退させぬよう事業を継続させていく必要がある。

大分地区公民館連合会

大分地区公民館連合会では、本年度4月の総会時に「今後の公民館に求められる多様な役割」というテーマで、県社会教育課生涯学習推進班の馬場尚登課長補佐（総括）兼主任社会教育主事の講演を受講し、年度当初に住民が望む公民館とは何か、職員に求められる役割について再確認でき、災害時に対応できる公民館運営の取組についても理解を深めた。

また、1月18日に開催予定であった公民館連合会・社会人権教育研究協議会の合同研修会が新型コロナウイルス感染症拡大のため急遽中止となったが、分科会で発表予定であった3部会の取組を報告する。

1 社会人権教育研究部会大分市

は、「おおいた人権フェスティバル」年間を通して開催し、大型商業施設での啓発活動・講演会・人権作品コンクールを実施。今後の課題は3点。①児童・生徒・学生・地域団体の参画者の増②内容や環境の見直し③参加体験しながら学習できる内容の発掘。

2 青少年教育研究部会津久見市

の主な活動は4つ。①あいさつ運動②毎月第3金曜日に市内20か所③子どもの安全を考える市民講演会④毎年11月に講師は子どもたちの支援や青少年の健全育成に係る団体の代表⑤啓発活動⑥横断幕の掲示⑦子ども連絡

所警察署・防犯協会・市連合PTAと連盟でステッカー作成。今後の課題は2点。①市内全ての子どもたちを対象とした活動の企画②時代の流れに沿った取組の推進。

3 高齢者（家庭）教育研究部会

臼杵市の野津地域の家庭教育学級の紹介。教室の主な内容は子どもの人権講話・ぶどう狩り・親子バス遠足・人形劇など観劇会等を開催したことで、地域ボランティアや各種団体等の協力体制が整い、休日開催で参加者も増えてきたが、今後の課題は教室に参加できない育児に悩む保護者への情報共有。

コロナ禍の中、3市とも学びを止めず今出来ることを継続して活動している。

依然新型コロナウイルス感染症の収束が見えない状況から、令和4年度も引き続き感染症対策を講じながら誰もが気軽に立ち寄れる、世代間交流の場としての、公民館活動を目指していく。

大分地区公民館連合会

事務局長 田代 由理





わがまち公民館



コロナ終息を祈るアマビエ絵馬

豊田公民館は、中津駅、市役所、文化会館など市の主だった施設がある地域（豊田小学校区）にある。38のサークルと10の団体が登録して活動・利用している。年間に市の講座が23回ある。公民館独自の行事や講座は9つあるが、その中でも本公民館の特徴的な行事として、9年間続いてきている「ハロウィンウオーグ」がある。ハロウィンの仮装をした子どもや親子が駅周辺と日ノ出町商店街をパレードし、ハロウィン仮装大賞



中津市 豊田公民館

中津市豊田公民館
館長 恒成 辰彦



展示した「ハロウィン・マスクデザイン」を鑑賞する地域の方

を審査する。しかし、この2年間はコロナ禍のために実施できていない。地域の子どもや親たちが楽しみにしている公民館行事を途切らせることはできないと、知恵を絞って、代わりに「アマビエ絵馬」（令和2年）と「ハロウィン・マスクデザイン」（令和3年）を実施した。アマビエ絵馬には、子どもたちのコロナ禍の思いや願いが込められていた。それらを公民館のアマビエ神社と称した掲示板に展示した。今年度は少しでもハロウィンの雰囲気を出すようにと、ハロウィンをイメージしたデザインをマスクに描いたものを募集した。子どもたちから147作品が集まり、すべて公民館のロビーに展示し、表彰も行った。コロナ禍の中、これまでのように多くの人が集まる行事はできななくても、地域の人たちに親しんできたものは工夫して、継続・存続させていきたい。



若宮公民館は、若宮小学校区を管轄とする地区公民館として平成17年に新設開館した。小学校から百メートルくらいの程よい距離のためか、放課後は宿題等のために公民館を利用する小学生が多く訪れる。こうしたこともあり放課後の時間を活用した公民館事業として、「放課後子ども広場」と「土曜学習の教室」いう2つの放課後教室に取り組んでいる。このうち「放課後子ども広場」は月2回、水曜日の放課後を使って行う活動であるが、低学年を中心に20名を超え



中津市 若宮公民館

中津市若宮公民館
館長 大蔵 博司



る参加者があり盛況となっている。最初の30分間は宿題に取り組み、その後、体験活動などを行うことを基本にしている。体験活動は季節感のある行事に取り組み、ことを大切にしている。七夕やかるた遊びコマ回しなどは定番の活動だ。今年の特徴的な活動としては、ラグビーW杯の際には大分市内でも展示された巨大ラントンを手がけるなどした市民グループ「ひょうたん工房日田」の中心メンバーが若宮地区在住のため、子どもたちの体験のためにということでもコロナの収束を願ってアマビエのラントンを協力してくれた。サンタに扮したアマビエラントンを2体とクリスマスツリー型のラントンを2体などを行うなどの貴重な体験ができた。日ごろから活動を支えてくれる地域住民の方たちを「サポーター」と呼んでいるが、これらも共に地域全体で子どもたちを育てようとした事業を展開して行きたいと思っている。

第72回九州地区公民館研究大会 福岡大会(Web配信)報告

第7分科会防災や防犯のまちづくりタイトル「災害発生時の公民館対応」

大会は動画配信での開催となり、事例発表もリモートだった。私は、公民館の自分のデスクからの発表である。テーマは持続可能な地域づくりにむけた防災や防犯のまちづくり。テーマが大きく、それに沿えるのかと心配したが「災害に直面した時、公民館がどう動いたか」の一点についてだけでも、話すことに意義があるだろうと思いきりこした。

災害は突然やって来た。令和二年七月七日、未明よりの豪雨で、氾濫した玖珠川は流域のホテルや商店、住居等の一部または全部を押し流した。かかってない大災害にあれこれと考えをめぐらすばかりであったが、何かをしなければ。被災者のための炊出ししかなかった。常日頃から、公民館を利用する五つの女性グループに協力をお願いした。昼と夜の二食を十日間、被災者に届けた。みんな一生懸命であった。「被災者の為に何かを」という共通の思いで乗り越えることが出来た。共感と連携、そしてやさしさを改めてかみ締めている。

日田市天瀬公民館

館長 高倉 誠二



九州地区公民館研究大会
「中村哲氏の遺したものと社会教育」
記念講演を視聴して



とにかく自分の信念をもった素晴らしい人だったと知った。争いをなくすには土地を肥やして食糧をつくるのが重要で、そのためには治水が必要だと考え用水路を作ろうとする

実行力、皆を巻き込んでいく人間力、すごい一言だった。公民館活動も人への思いやりと強い信念、社会貢献の気持ちを貫いて続けるリーダーが存在することで後輩が育っていくと考えるとそのお手本のような方だと思った。分科会は冊子を読むと公民館活動はもはやその館(場所)で行う活動だけでなく、子育てから学校教育、地域づくり、高齢者、防災など人の人生すべてを包括するものに大きく変わってきたのだと感じた。それぞれには制度や施策を実行する主管課があるが、公民館は住民と主管課をつなぎ住民が課題に対して主体的に取り組み手助けをするというものが増えてきていると思う。

公民館活動Ⅱすべてを包括した社会教育活動と考えるなら、大分県における公民館研究大会や関連する研修会等は内容をより充実したものにするためにも社会教育大会として1つにする段階にきているのではないだろうか。

豊佐地区公民館連合会

事務局長 橋爪 妙子

令和3年度地域力を高める公民館活性化モデル事業の取組1

由布市畑田公民館

由布市庄内町の畑田自治区では、公民館長を中心として、公民館を拠点に「子どもから大人まで、地域内外の人のふれあいの場所づくり」をコンセプトとした住民交流の促進を図るための活動に取り組んでいる。

令和3年度は公民館活性化モデル事業を活用し、地域住民の学習や地域内外の人達との交流を図るため「絵本・紙芝居講座」や「リトミック講座」などを実施した。

「絵本・紙芝居講座」では、由布市内で私設図書館を運営する方を講師にむかえ、紙芝居の歴史やその特性・演じ方を学習し絵本の読み聞かせ等の実践を行った。また、「リトミック講座」では、楽器を鳴らしながら簡単なリズム体操を行い、参加者間の交流を促していくための学習と実践を行った。

本講座は、公民館を広く地域住民に開放するための取組みの一つで、参加者個人が学習するだけではなく、講座終了後も参加者が主体的に公民館に集い相互に学習・練習等を行い、その成果をさらに他地域住民の交流に役立てもらうために開催したものである。

今後引き続き、地域内外の人が共に活動することのできる公民館活

動を企画・開催し、公民館を拠点とした地域住民の交流活動の事業を展開していく予定としている。毎月第3日曜日の公民館自由開放を継続的に実施していくことで、地域の子どもや大人達が気軽に公民館に集い、心豊かに過ごせる場所となっていくことを期待している。

由布市畑田公民館

館長 杉崎 初実



令和3年度地域力を高める公民館活性化モデル事業の取組2

九重町東飯田公民館

東飯田公民館では「利用者は高齢者が多く、利用する人も固定されている」「若い世代の社会教育への関心あまりない」の2点を課題として捉えている。多くの世代の方々に公民館へ足を運んでもらうとともに、若い世代にも社会教育や公民館事業への関心を持ってもらうために、フォトモザイクアート作成をメインに位置づけて計3つの事業を実施することで課題の改善を図った。

まず初めに取り掛かったのは館内に華やかな手作りフォトポップスやフォトスポットを設置することである。親子連れの方が来館した際に、フォトスポットを見つけると写真を撮っていく姿が見られた。見た目も明るくなり親子でコミュニケーションを取るきっかけにもなった。

次に実施した「カメラ講座」にはカメラに興味を持つ方々が参加し、写真の撮り方やカメラの扱い方を学ぶ中で、コロナ禍における新しい趣味の発見につながることができた。また、今回の講座を契機にフォトコンテストの実施や、別の公民館事業の取材での撮影協力など、一つの事業から別の事業へと繋ぐことができた。

フォトモザイクアートは、公民館事業での写真やフォトコンテストの

応募写真、地域の人からネットを通じて提供してもらった写真を素材にして作成した。公民館内に展示し、ケーブルテレビでも取り上げてもらうことで話題作りになった。

今回の事業を機に、公民館ではこんな取り組みもしているのかと多くの世代に興味を持ってもらえる嬉しい。

九重町東飯田公民館

主任 切木 俊介



令和3年度地域力を高める公民館活性化モデル事業の取組3

日田市夜明公民館

夜明地区は公民館を中心に、大肥川沿いに北に約4km、筑後川沿いに西に約4kmの日田市内から離れた中山間地域に集落が点在し、世帯数は320、人口820名で高齢化率は44%を超え、人口も年々減少している。2017年の九州北部豪雨災害では、この夜明地区も甚大な被害にあい、地区内の自治公民館の小鶴公民館も被害にあい、移転せざるを得なくなった。移転を機会に地域の方々から、敷地内に花壇を設置し、憩いの場にしたという声があった。また川崎公民館も花壇がなく、カンナなど野草が生い茂る状況だった。

コロナ禍で、地域住民が集まる機会も少なく、今回の花壇の作成、季節ごとの花の植苗には地域の方々が集まり、会話もはずみ、楽しい時間を過ごした。また花壇を設置することで、日々の水遣りや草取りに皆が集まり、「この花は暑さに弱いね」、「来年はこうしましょう」などコミュニケーションが取れた。この地区は公共の交通機関も乏しく、災害でJR九州の日田彦山線も廃止となり、地域の過疎化が進む中、地域維持機能の継続・拡大をどのように進めるか、課題も多く、このような花いっぱい運動など身近な活動を

通して、高齢者の健康維持や地域のつながりが深まるように活動を推し進め、今後は他地域の自治公民館にも広げていきたい。

日田市夜明公民館

館長 諫山 則孝



お知らせ

表彰

大分県公民館連合会表彰

【優良職員表彰】

宇佐市佐田地区公民館 元館長 塔尾 健児 氏
 竹田市久住公民館 館長 足立 達哉 氏

【勤続職員表彰】

日田市公民館運営事業団事務局 公民館主事 伊藤 正昭 氏
 宇佐市四日市公民館 館長 落合 義典 氏
 宇佐市佐田地区公民館 社会教育指導員 佐田くるみ 氏
 国東市朝来地区公民館 館長 河野 伸二 氏
 国東市西武蔵地区公民館 館長 石川祥一郎 氏
 国東市国東中央公民館 館長 岐部 準次 氏
 大分市松岡校区公民館 主事 春藤やよい 氏
 大分市竹中公民館 公民館主事 三浦 淳子 氏
 大分市坂ノ市公民館 館長 江藤 正光 氏
 日田市二花公民館 館長 樋口 虎喜 氏
 日田市若宮公民館 館長 望月 明治 氏
 日田市桂林公民館 館長 高倉 謙二 氏

【公民館運営審議会委員表彰】

杵築市公民館運営審議会 委員長 河尾 定憲 氏
 杵築市公民館運営審議会 委員 岩尾 博信 氏
 大分市大南公民館 運営審議会 委員 山村 紀子 氏
 由布市庄内公民館 運営審議会 委員 伊藤 正穂 氏
 由布市挾間公民館 運営審議会 委員 田中真知安 氏

豊後大野市公民館運営審議会 委員長 田原 靖憲 氏
 豊後大野市公民館運営審議会 副委員長 衛藤 好美 氏
 佐伯市公民館運営審議会 委員 牧野 昂吉 氏
 日田市東有田公民館 公民館運営委員会副会長及び常任委員 菅田 敏幸 氏
 日田市前津江公民館 公民館常任委員 矢幡 静一 氏

広報コンクール表彰

【公立公民館報の部】

◆**優秀賞**
 日田市前津江公民館 「まえつえ」
 竹田市直入公民館 「つながり」
 竹田市荻公民館 「かけはし」

◆優良賞

豊後高田市草地公民館 「くさじ」

【自治公民館報の部】

◆優秀賞

別府市鶴見町公民館 「公民館だより」
 別府市扇山公民館 「扇山通信」
 別府市須賀東町公民館 「つくし」

◆優良賞

別府市原町公民館 「はらまち」
 大分市大在浜公民館 「大在浜区ニュース」

【ポスター・チラシの部】

◆優秀賞

別府市扇山公民館 「扇山案内」

◆優秀賞

別府市鶴見町公民館 「鶴見町自治会公民館活動の概要」

令和4年度事業の予定

大分県公民館連合会関係

諸会議

期日：4月8日(金)
 会場：大分市(県庁舎)

内容：令和3年度会計監査
 第1回理事会
 期日：4月21日(木)

会場：大分市(大分県立図書館)
 議事：令和3年度事業報告、
 令和4年度事業計画等
 総会
 期日：5月19日(木)
 会場：大分市(大分県立図書館)
 議事：令和3年度事業報告、
 令和4年度事業計画等

第2回理事会

期日：7月28日(木)
 会場：大分市(大分県立図書館)

各地区公民館連合会会議

期日：随時
 会場：県内5箇所

各地区公民館連合会研修会

期日：随時
 会場：県内5箇所

研修

大分県公民館関係職員研修会
 期日：5月19日(木)
 会場：大分市(大分県立図書館)

大分県公民館テーマ別研修会①
 期日：7月15日(金)
 会場：大分市(大分県立図書館)

大分県公民館テーマ別研修会②
 期日：9月16日(金)
 会場：大分市(大分県立図書館)

第73回大分県公民館研究大会
 期日：10月6日(木)～10月7日(金)
 会場：J・COMホルトホール大分

大分県公民館連合会表彰
 期日：10月7日(金)
 会場：J・COMホルトホール大分

情報提供
 期日：2023年3月
 ホームページによる情報提供
 期日：随時

九州公民館連合会関係

期日：4月14日(木)
 会場：鹿児島県鹿児島市

議事：令和4年度九州公民館連合会役員案等
 第1回理事会
 期日：4月14日(木)
 会場：鹿児島県鹿児島市

議事：令和3年度事業・決算・監査報告、
 令和4年度事業計画等
 第2回会長会
 期日：8月31日(水)
 会場：鹿児島県鹿児島市 宝山ホール

議事：第44回全国公民館研究集会・
 第73回九州地区公民館研究大会鹿児島大会等
 第2回理事会
 期日：8月31日(水)
 会場：鹿児島県鹿児島市 宝山ホール

議事：第44回全国公民館研究集会・
 第73回九州地区公民館研究大会鹿児島大会等
 第2回理事会
 期日：8月31日(水)
 会場：鹿児島県鹿児島市 宝山ホール

議事：令和3年度事業報告・決算見込、
 令和4年度事業計画・予算案等
 事務担当委員会
 期日：1月19日(木)
 会場：長崎県

議事：令和4年度事業報告・決算見込、
 令和5年度事業計画・予算案等
 公益社団法人全国公民館連合会関係
 期日：6月8日(水)
 会場：東京都

議事：令和3年度事業報告・決算報告等、
 令和4年度事業計画・予算案等
 第44回全国公民館研究集会鹿児島大会
 期日：9月1日(木)～2日(金)
 会場：鹿児島県鹿児島市 宝山ホール等

全国公民館連合会表彰
 期日：9月2日(金)
 会場：鹿児島県鹿児島市 宝山ホール